

特色ある学校

「挑戦」と「連携」

～「工芸流」技能者育成と地域貢献～

名古屋市立工芸高等学校 工務主任 山田 謙介

1. はじめに

本校は、1917年（大正6年）に名古屋市立工芸学校として創立し、まもなく100周年を迎える歴史ある学校である。はじめは金工科、木工科、図案科の3科でスタートしたが、度重なる学科改変により、現在は、都市システム科、建築システム科、インテリア科、デザイン科、グラフィックアート科、電子機械科、情報科の7科で構成しており、創立当初からそれぞれの学科の特性を生かし、地域の活性化や産業界の発展に寄与している。

本校は、工業高校としての魅力と特色ある多くの取組を行っている。生徒の学習を学校内だけで完結するのではなく、日頃の成果を行政や地域へ還元している。また、企業の技術者と技術・技能を競う等、生徒がより輝ける場を提供し、生徒たちもそれに応えている。

本稿では、教育方針の柱となっている「挑戦」「連携」という2つのキーワードに着目し、特色ある教育活動について紹介したい。

2. 「挑戦」

技能五輪を通した世界基準の技能者育成

「挑戦」に関する代表的な取組は技能五輪全国大会への出場である。平成27年度までに建築システム科が「建築大工職種」「左官職種」「木型職種」、情報科が「ウェブデザイン職種」「ビジネス業務用ITソフトウェア・ソリューションズ職種」にそれぞれ出場しており、歴代の出

場生徒が輝かしい実績を残している。

大会出場を通して、教育目標「自分の道を、自分で考え、自分で選択し、自分で歩いていく生徒を育てる」を達成すべく、様々な課題を解決していく能力を身に付けさせ、世界で活躍できる技術者・技能者の育成に取り組んでいる。

(1) 建築システム科の「挑戦」

建築システム科の取組の中でも特徴的なものは、大会に向けた練習で産学官の協力体制による技術指導が行われていることである。

産業界からは名工、マイスターと呼ばれている方々を招聘し、企業による技能講習会にも積極的に参加して、高い技能に触れる機会を設けている。また、愛知県産業労働部、愛知県職業能力開発協会からも多くの支援を受けている。また愛知県立東三河高等技術専門校では、大工の伝統技術である規矩術の指導を受けており、生徒の技術・技能は飛躍的に向上している。

技術面の指導以外に、メンタル面の成長にも重きを置いている。例として駅のコンコース、テーマパーク、地域の祭り等、様々な場面で行う公開練習がある。多くのギャラリーがいる中、本番さながらの緊張感を持ち、場数を踏むことで経験値を上げることが狙いである。

それ以外でも自分たちで応援団「木工戦隊ゴリンジャー」を結成して、モチベーションを向上させ、団結を図っている。

〈過去の3年の主な成績〉



図1 建築大工職種

- ・平成25年度技能五輪国際大会（ドイツ）
「建築大工職種」敢闘賞（出場は卒業後）
- ・平成26年度技能五輪全国大会
「建築大工職種」銅賞
- ・平成27年度技能五輪全国大会
「左官職種」審査員特別賞

(2) 情報科の「挑戦」

情報科では、「継続的な指導」に重点を置いている。大会だけの技能とならないように、日々の学習から意識付け、技術指導を行い、卒業後Web業界の第一線で活躍できる人材育成に取り組んでいる。この長いスパンでの取組によって、学年を越えた繋がりも深まり、上級生が下級生を指導するといった、技術・技能の継承が生徒間でもできるようになってきた。

また、情報科では「Web部」というサークル活動も行っており、近隣の中学校や商店街のWebサイト制作等の地域活性化事業にも力を入れている。このような活動を通して、生徒に「自分で考える力」や「コミュニケーション力」を身に付けさせ、競技に必要な力を養うとともに、人間的な成長も図っている。

〈過去の3年の主な成績〉

- ・平成25年度技能五輪国際大会
「ビジネス業務用ITソフトウェア・ソリューションズ職種」敢闘賞
(出場は卒業後)
- ・平成25年度技能五輪全国大会
「ウェブデザイン職種」優勝、銅賞
- ・平成26年度技能五輪全国大会
「ウェブデザイン職種」敢闘賞

- ・平成27年度技能五輪全国大会
「ウェブデザイン職種」金賞、銀賞

3. 「連携」

「まちのデザイン事務所」による地域貢献

教育目標を実現し、次世代を担う有為な人材を育成するために、通常のカリキュラム以外にも特色あるプログラムを実践している。中でも最も成果を上げているのが、外部（自治体・企業・大学・地域）との連携による「まちのデザイン事務所」プロジェクトである。

「まちのデザイン事務所」とは、生徒がデザイナー・プランナーになり、外部からの依頼を受け、提案や解決プランを提示していく取組である。生徒はクライアントから提示された課題を主体的に解決していくことで、創造力・思考力・判断力・表現力等の能力を伸ばしている。アクティブ・ラーニング等の先進的な教授法も採り入れ、大きな成果を上げている。

また、「まちのデザイン事務所」には教育プログラムとは異なったもう1つの側面がある。それは高校生による地域の活性化、または地域への貢献という面である。本校生徒だからできる思考・発想等、クライアントからの期待はとても高い。「まちのデザイン事務所」は地域のデザイン駆け込み寺としても機能している。

(1) 地域との連携

① 近隣小学校への防災支援

地域の災害対策の実践のために生徒有志により「防災チーム」を結成した。近隣小学校へ災



図2 小学校でのかまどを使用した防災教育



図3 ポスター・パンフレット各種

害時にかまどとして炊き出しができる「災害かまどベンチ」を製作。かまど部分は都市システム科，かまどの上に設置するベンチはインテリア科，紹介パネルをグラフィックアーツ科がそれぞれ制作した。学区の防災訓練で実際に利用していただき，小学生をはじめとした地域の方々の防災意識向上に貢献することができた。

② 区役所の地域イベントの広告や名刺制作

区民まつりや地域主催のイベント等の告知ポスター・パンフレットを制作。クライアントが求めるイメージを丁寧にヒアリングし，それに合ったデザイン案を提示した。ポスターは市内各所に掲示された。

また，区役所職員用名刺のデザインを依頼され，区ゆかりの花・木・山車をモチーフとしたデザインの名刺を制作し，採用された。

③ 商店街の活性化推進

前述の「Web部」の活動で，近隣商店街を活性化すべく，オリジナルゆるキャラのデザインや，商品開発，商店街ウェブサイト開設等を行い，商店街の活性化に貢献した。



図4 大曾根本通商店街活性化事業



図5 動物愛護センター壁画

④ 公共施設の壁画制作

名古屋市の動物愛護センターや農業センターといった公共施設に明るいイメージになるような壁画を制作。施設のシンボルとなるような壁画となった。

その他にも，各種啓発ポスター制作や近隣の中学校，教育委員会のウェブサイトデザイン等，様々な取組の実績がある。

その成果が何度もテレビや新聞・雑誌の記事に取り上げられ，大きな注目を集めている。それが，生徒たちの励みにもなっている。

(2) 企業との連携

高校生の目線はとても新鮮であり，時として大人では浮かばない斬新な発想を生むことがある。そういった期待を持って本校に新しいアイデア，デザインを求める企業もある。

昨年度は「株式会社エイビス」という野球のユニフォーム等を製作する会社からの依頼に取り組んだ。新商品で，従来の野球のユニフォームのイメージを脱却した新しいターゲット・市



図6 試作段階の広告

場の開拓をするアイデアが求められた。そこで、生徒が提案したものは「野球をしたことがない人でもおしゃれに着こなすことができるポップでかわいい、またはクールでかっこいいユニフォーム」のデザインであった。製品のデザインからモデル撮影、イメージに沿った広告の作成まで、一貫して生徒が制作に携わった。

(3) 様々な催し物への参加

地域主催のイベントへのボランティアとして、運営スタッフ、撮影スタッフ、展示参加等、イベントの盛り上げに貢献。また、前述した防災チームを中心に宿泊型防災訓練を本校で実施。地域住民の方々も大勢参加し、地域の防災意識向上の一助となった。

(4) 大学との連携（ワークショップ）

これまで紹介したようなクライアントからの依頼といったプロジェクトとは別に、生徒自身のスキルアップを目的としたワークショップも行っている。大学の施設・設備を利用し、本校ではできない実習を行い、高度な知識・技術を習得している。また、その技術を別の取組にも活かしている。主な連携先は名古屋市立大学芸術工学部である。具体例を以下に紹介する。

① スタジオワーク演習

大学内スタジオにおいて写真撮影スキルを上げるスタジオワークを開催。名古屋市立桜台高等学校ファッション文化科と連携し、ファッションフォト撮影会を行った。

② 建築物探訪

建築システム科の実習の一環として、大学生



図7 スタジオワークの様子



図8 映画撮影協力の様子

とグループを組み、近郊の著名な建築物の見学会を行っている。また、見学後にディスカッションを通して建築物の特色や設計者の設計意図を共有している。

③大学制作映画への協力

大学が制作する映画への協力として、ロケ地の提供や演劇部の出演、映画ポスター・フライヤーのデザイン等、多岐に渡って連携を図り、大学生とともに作品を作り上げて、お互いの感性を磨いた。

4. おわりに

本校の英語での表記は「Nagoya City Industrial Arts High School」であり、Industrial（工業）とArt（芸術）が融合した学校ということになる。本校が名古屋に存在する意義と、地域から期待され、求められるものを考えた時、2つの使命、役割があると考えます。

1つは工業系高校として、全国でも有数の工業地域を担う技術者・技能者を育成するという役割である。もう1つはユネスコ・デザイン都市に認定されている名古屋において、先進的なデザインの教育機関として有望なデザイナーを育成するという役割である。

本稿で挙げた2つのキーワード「挑戦」と「連携」は、それらの役割を着実に果たすための教育方針の柱である。

来年度100周年を迎える本校は、次の100年に向け、これまで紹介してきた取組をより一層充実させていきたいと考えている。